

各関係機関団体の長  
各病虫害防除員

殿

福岡県農林業総合試験場長  
(福岡県病虫害防除所)

### 麦類赤かび病の防除について

麦類の赤かび病対策は、出穂7～14日ごろの薬剤防除が重要です。本年産麦類の出穂期は小麦で平年と比べ1日早く、大麦で平年と比べ1日遅いと予想されています。生育状況を確認し、適期を逃さず防除を行いましょう。

#### 技術情報第14号

1 対象作物：麦類（小麦、大麦）

2 病虫害名：赤かび病

3 生育状況および気象情報

(1) 農林業総合試験場における麦類の出穂期（3月24日発表）は、今後の気温が平年並で経過した場合、11月20日播種の小麦で平年と比べ1日早く、11月26日播種の大麦で平年と比べ1日遅いと予想されている（表1）。

(2) 福岡管区気象台の1か月予報（3月26日発表）によると、向こう1か月（3月28日～4月27日）の気温は高く、降水量は平年並か多いとされている。

4 防除対策

(1) 1回目の薬剤防除は、小麦および裸麦（開花受粉性）では開花期（出穂後7～10日）、二条大麦（開花受粉性）では蒴殻が押し出されてくる穂揃期の約10日後（出穂後12～14日）を目安として実施する。ただし、今後の気温の変動により出穂期および防除適期が前後する可能性があるため、必ずほ場内の生育状況を確認してから防除を行う。

(2) 赤かび病に弱い品種では2回防除を徹底し、その他品種についても1回目防除後に降雨や曇天が続く場合は補正防除を実施する。2回目の防除（補正防除含む）は、1回目防除の7～10日後に行う。

(3) 液剤による薬剤防除の場合、散布した薬液が乾いた後の降雨であれば、防除効果に対する影響は小さい。粉剤では、散布後6時間以内の降雨により防除効果が低下するので、降雨の合間に薬剤防除を行う際は、気象情報に注意する。

(4) 薬剤防除に当たっては、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守する。特に小麦、大麦

で農薬使用基準の異なる薬剤が多いので注意する。また、周辺ほ場への飛散防止対策を講ずる。

表1 農林業総合試験場における麦類の出穂期（令和8年3月24日発表）

麦種	品種名	播種期 (月/日)	予想出穂期（月/日）		
			本年	前年差	平年差
小麦	チクゴイズミ	11/20	4/1	-8	-1
	ちくしW2号 (ラー麦)	11/20	3/31	-8	-1
大麦	はるさやか	11/26	3/31	-	+1
	はるか二条	11/26	4/2	-	-

注1) 平年値は小麦ではH27～R6年播の10か年、大麦「はるさやか」ではR6を除くR2～5年播の4か年の平均値。

注2) この値は暫定値で、今後変更することがある。

注3) 予想出穂期は、今後の気温が平年並で推移した場合の予測値。過去の播種期および出芽期～出穂期の積算温度と、これまでの積算温度および麦の生育状況から予想した。



赤かび病の発生状況（左：小麦、右：大麦）

病虫害防除所のホームページでは、各種病虫害の発生状況を随時更新しています。発生状況の把握や防除の参考にご活用下さい。

○福岡県病虫害防除所のホームページへのアクセス

URL:<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/fukuoka-bouzyosyo.html>

または右QRコード①

①⇒



○X（旧 Twitter）で定期情報や警報等発出のお知らせをしています。

X（旧 Twitter）の本アカウント（福岡県農作物病虫害情報）へのアクセス

URL：[https://x.com/PPDPO\\_Fukuoka](https://x.com/PPDPO_Fukuoka) または右QRコード②

②⇒

